

平成30年度白井市施策評価 外部評価結果報告書

平成30年12月
白井市総合計画審議会

1 報告にあたって

白井市では、平成25年に千葉ニュータウン事業が収束し、これまで増加し続けてきた人口も平成32年をピークに減少に転じ、少子化・高齢化の一層の進展が見込まれるなど、これまでの量の拡大を基調としたまちづくりから、質の向上や地域資源の活用を基調とした持続可能なまちづくりへと、新たなステージに突入しています。

このような中、当審議会は、平成26年度から27年度にかけて、白井市第5次総合計画（計画期間は平成28年度から37年度まで。以下「総合計画」という。）の策定に携わってきました。

総合計画では、白井市を次世代に良好な形で継承していくため、10年後の将来像を「ときめきと みどりあふれる 快活都市」とし、3つの重点戦略（若い世代定住プロジェクト、みどり活用プロジェクト、拠点創造プロジェクト）と9つの施策（戦略の柱）に取り組んでいくこととしています。

総合計画の実効性を確保するためには、行政活動を客観的に評価して、限られた行政資源（ヒト・モノ・カネ・情報等）を組織全体で最適に配分するためのマネジメントの仕組みである行政評価を適切に機能させることが不可欠であり、行政評価に基づいて、市民ニーズに真に合致したサービス、納税者である市民が納得するサービスを提供することが求められます。

このため、白井市では、総合計画の実現を下支えする白井市行政経営指針に基づき、大局的な視点で市民にとっての成果を捉えるために、平成29年度から実施計画事業より1階層上の施策を対象とした施策評価を導入しました。さらに、行政評価の客観性・透明性を確保し、市民の視点から行政活動の改善を進めるために、施策評価に当審議会による外部評価を導入しました。

当審議会では、平成29年度に引き続いて、白井市で2年目の外部評価を実施し、施策を対象とした行政の内部評価に対して、各委員がそれぞれの立場から、その知識や専門性、経験を活かして再度評価を実施し、行政ではなかなか気づかない視点、市民に近い視点から意見を取りまとめました。

当審議会の意見が、庁内における活発な議論に活用され、施策のより一層効果的な推進が図られるとともに、白井市の行政評価制度が円滑に機能するための一助となるよう、本報告書を提出します。

白井市総合計画審議会 会長 関谷 昇

2 平成30年度外部評価の概要

(1) 外部評価の対象

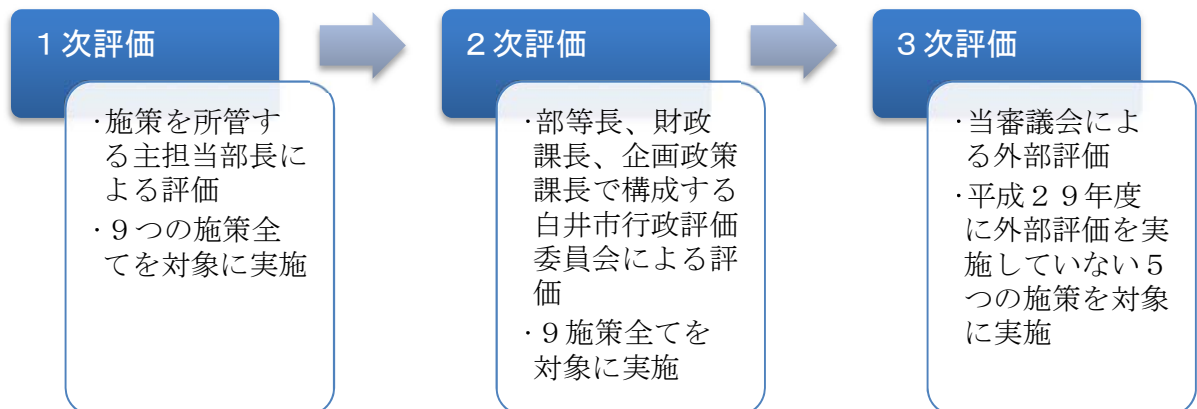
白井市では、9つの施策全てについて、当該施策を所管する主担当部長による1次評価と、庁内の行政評価委員会による2次評価を実施しています。

当審議会では、2年間で全ての施策について3次評価として外部評価を実施するという方針のもと、平成29年度に4つの施策の評価を実施し、今年度は残りの5つの施策について評価を実施しました。

【総合計画の体系】

| 重点戦略 | 施策 | 評価対象 | 主担当部 |
|-------------------------|---------------------|------|---------|
| 戦略1 若い世代定住 プロジェクト | 1 ゆとりある暮らしを支えるまちづくり | | 都市建設部 |
| | 2 働く場を生み出すまちづくり | ○ | 市民環境経済部 |
| | 3 子育てしたくなるまちづくり | | 健康子ども部 |
| 戦略2 みどり活用 プロジェクト | 1 「魅せる農」のまちづくり | | 市民環境経済部 |
| | 2 みどりが価値を生み出すまちづくり | ○ | 市民環境経済部 |
| | 3 みどりがつながるまちづくり | ○ | 市民環境経済部 |
| 戦略3 拠点創造 プロジェクト | 1 都市拠点がにぎわうまちづくり | ○ | 都市建設部 |
| | 2 地域拠点がにぎわうまちづくり | | 市民環境経済部 |
| | 3 拠点がつながるまちづくり | ○ | 都市建設部 |

≪参考≫外部評価までのフロー



(2) 外部評価の視点及び評価基準

当審議会では、各委員が主に9つの視点に基づき、視点ごとに4段階で評価を行いました。

また、これらの視点に限らず、各委員のそれぞれの知識や専門性、経験に基づく視点からも意見を述べました。

ア 外部評価の視点

| 項目 | 内容 |
|--------|-------------------------|
| 取組状況 | ①目標実現に資する取組となっているか。 |
| | ②市民ニーズに即した取組となっているか。 |
| | ③他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 |
| 成果 | ④目標実現に向けて成果は上がっているか。 |
| | ⑤1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 |
| 課題・方向性 | ⑥今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 |
| | ⑦今後の方向性は妥当か。 |
| 分かりやすさ | ⑧市民に分かりやすい記載となっているか。 |
| 総合評価 | ⑨施策の総合評価 |

イ 評価基準

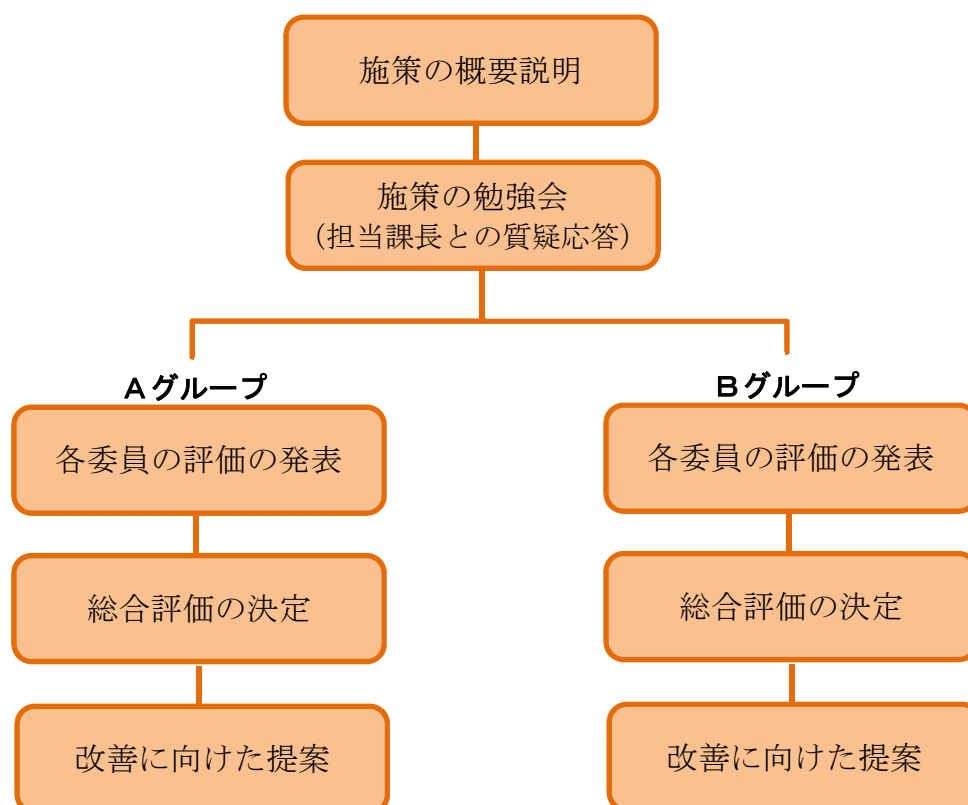
| 類型 | 内容 |
|----|--------------------|
| A | 特に優れている（期待を大きく上回る） |
| B | 優れている（期待を上回る） |
| C | 劣っている（期待を下回る） |
| D | 特に劣っている（期待を大きく下回る） |

(3) 外部評価の実施方法

当審議会では、施策への取組状況や庁内での1次・2次評価結果などの説明を受けた後、施策への理解をさらに深めるため、担当課長との質疑応答形式による勉強会を実施しました。

その後、当審議会を2グループに分け、それぞれのグループで担当する施策について、各委員が自身の評価内容を述べ、委員間での協議の上、当審議会として最終的な総合評価を決定し、今後の取組の改善に向けた提案を行いました。

ア 外部評価の流れ



イ 各グループの担当施策

| グループ | 担当施策 |
|-------|-----------------------|
| Aグループ | 戦略1－2働く場を生み出すまちづくり |
| | 戦略2－2みどりが価値を生み出すまちづくり |
| Bグループ | 戦略2－3みどりがつながるまちづくり |
| | 戦略3－1都市拠点がにぎわうまちづくり |
| | 戦略3－3拠点がつながるまちづくり |

(4) 当審議会の開催経過

| | 会議日 | 内容 |
|-----|-------------------|---|
| 第1回 | 平成30年 5月25日(金) | ・施策評価の1次・2次評価結果について |
| 第2回 | 平成30年 7月6日(金) | ・勉強会(担当課長との質疑応答) |
| 第3回 | 平成30年 7月13日(金) | ・外部評価の実施【Aグループ】 (各委員の評価の発表、総合評価の決定、改善に向けた提案) |
| | 平成30年 7月20日(金) | ・外部評価の実施【Bグループ】 (各委員の評価の発表、総合評価の決定、改善に向けた提案) |
| 第4回 | 平成30年 9月26日(水) | ・外部評価結果及び市の対応方針について ・今後の行政評価について |

(5) 当審議会の構成

| 氏名 | 所属・役職等 |
|------------|--------------------------|
| 関谷 昇(会長) | 千葉大学 大学院 社会科学研究院 教授 |
| 助友 裕子(副会長) | 日本女子体育大学 体育学部スポーツ健康学科 教授 |
| 手塚 崇子 | 川村学園女子大学 教育学部 幼児教育学科 准教授 |
| 黒添 誠 | 自治連合会 会長 |
| 松本 千代子 | 社会福祉協議会 会長 |
| 永田 浩之 | PTA 連絡協議会(桜台小) |
| 山崎 信男 | 農業研究会 会長 |
| 藤田 均 | 商工会 理事 |
| 野水 俊夫 | 白井工業団地協議会 代表理事 |
| 近藤 恭子 | 母子保健推進員協議会 副会長 |
| 石澤 猛 | 公募 |
| 鈴木 フミ子 | 公募 |
| 西飯 峰 | 公募 |
| 橋本 哲弥 | 公募 |
| 山本 昌弘 | 公募 |

※平成30年7月時点

3 平成30年度外部評価の結果

(1) 評価結果の総括

ア Aグループ

①評価体制

関谷会長、助友副会長、藤田委員、野水委員、近藤委員、橋本委員、西飯委員

②総合評価

【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

| A 委員 | B 委員 | C 委員 | D 委員 | E 委員 | F 委員 | G 委員 | 最終評価 |
|------|------|-------|------|------|------|------|------|
| C | B | BとCの間 | A | B | B | B | B |

【戦略2-2 みどりが価値を生み出すまちづくり】

| A 委員 | B 委員 | C 委員 | D 委員 | E 委員 | F 委員 | G 委員 | 最終評価 |
|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| C | B | BとCの間 | B | B | BとCの間 | 欠席 | B |

イ Bグループ

①評価体制

関谷会長、助友副会長、手塚委員、黒添委員、松本委員、鈴木委員、西飯委員
山本委員

②総合評価

【戦略2-3 みどりがつながるまちづくり】

| A 委員 | B 委員 | C 委員 | H 委員 | I 委員 | J 委員 | K 委員 | L 委員 | 最終評価 |
|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| C | C | Cに近いB | C | B | C | C | B | B |

【戦略3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり】

| A 委員 | B 委員 | C 委員 | H 委員 | I 委員 | J 委員 | K 委員 | L 委員 | 最終評価 |
|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| C | B | Cに近いB | B | B | B | C | B | B |

【戦略3-3 拠点がつながるまちづくり】

| A 委員 | B 委員 | C 委員 | H 委員 | I 委員 | J 委員 | K 委員 | L 委員 | 最終評価 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| C | B | C | C | B | C | C | C | B |

※最終評価は、各グループの委員間での協議の上、当審議会として決定した最終的な総合評価です。

(2) 施策別の評価結果

【戦略1ー2 働く場を生み出すまちづくり】

| | |
|----------------|--|
| 重点戦略 | 1 若い世代定住プロジェクト |
| 主担当部 | 市民環境経済部 |
| 主な 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ○工業団地などにおける市民雇用の拡大 ○異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援 ○未利用地や幹線道路沿道等における開発誘導 ○起業希望者に対する支援の仕組みづくりや起業を意識した学習機会の提供 |
| 内部評価 (進捗状況) | おおむね順調 |
| 外部評価 結 果 | <p>総合評価は、A・B・C・Dの4段階のうち「B（優れている）」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>①白井での働き方や働くことの魅力・特徴について、ワークライフバランスの観点など「働く側にとって魅力的と思える諸産業・事業者についての情報」を具体的な形にして、広報やSNSなど多様な手法で広く市内外に発信していくこと。</p> <p>②異分野・異業種間の交流、橋渡しについて、交流会や見学会などの場づくり、仲介などの支援をより積極的に行っていくこと。また、新たな仕事や事業を作り出していく具体的なプロセスを明らかにし、様々な動きを段階的に着実に進めていくこと。</p> <p>③ヒト・モノなど既存資源を生かすビジネスの発掘・創造や新しい事業者による産業の活性化について、意見交換会などを通し、事業者や各種団体等の意見を吸い上げ、そのニーズに沿った支援を行っていくこと。</p> <p>④人口減少を見据えた定住人口増加策という視点だけでなく、週末農業・二地域居住など「関係（交流）人口」の観点からも多様な仕事・雇用・事業の創設を図り、幅広い職住環境のあり方を追求していくこと。</p> |

■委員の主な意見■

【白井での働き方や働くことの魅力・特徴の具体化】

- 工業団地を抱えていることの優位性を雇用政策の中でどう捉え、工業団地の有する可能性やポテンシャルをどう活かしていくか、若い世代にとってどのくらい魅力あるものに映っているかという観点から、もっと戦略的に踏み込んで考える必要がある。
- 工業団地見学ツアーなどを通じて、白井で働くことへの関心をもってもらうことは重要であり、子どもの頃から白井で働くというイメージや魅力を膨らませていく取組を段階的に積み重ねていく必要がある。
- 白井で働くということについて、性別、国籍やライフステージなど様々な視点から捉え、その視点からの働き方がどうあるべきかを掘り下げていく必要がある。

【異分野・異業種間の交流の支援】

- 起業のためのセミナーや異業種交流会は、非常に大事な取組であるが、それは最初の一步であり、交流だけで終わるのではなく、交流から次のステップにつなげるための支援が必要である。
- 異分野・異業種との交流により、別の産業界等から魅力的なアイデアが出てくることがあるが、内発的な力だけでは実現することが難しいので、そのアイデアを結実させるための橋渡しが重要である。
- 市民参加型の事業体のように、行政が一つの事業体をつくって、そこを市民が利用しながら利益を出し、事業体として大きくなることにより働く場をつくっていくという考えもある。

【既存資源を生かすビジネスの創造】

- 空き家や休耕地などの既存資源を活かしたビジネスの創造の可能性について掘り下げていくことも必要である。
- 若い世代が魅力を感じる新しい事業について、若い世代の意見を取り入れながら考えていくと良い。

【関係（交流）人口の観点からの職住環境の追求】

- 週末農業を起点とした情報発信の仕方があっても良い。
- なかなか人口を増やしていくことが難しい中で、思い切って交流人口を主軸にして、その視点から働く場ということも検討していく必要がある。

【戦略2-2 みどりが価値を生み出すまちづくり】

| | |
|----------------|---|
| 重点戦略 | 2 みどり活用プロジェクト |
| 主担当部 | 市民環境経済部 |
| 主な取り組み | ○市民活動団体等と連携したグラウンドワークの推進 ○環境学習の推進 |
| 内部評価 (進捗状況) | おおむね順調 |
| 外部評価 結果 | <p>総合評価は、A・B・C・Dの4段階のうち「B（優れている）」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>①みどりの価値について、現状を維持・保全していくものなのか、付加価値を見出してさらに発展させていくものなのか、白井の環境価値の位置付けを、さらに深堀していくこと。</p> <p>②環境保全活動に対する市民の認知度が低いため、これまで以上に広く市民に周知していくこと。また、より積極的に地域と連携した活動を展開していくこと。</p> <p>③ゴミ拾いやキャンプなど日常生活の中で環境保全活動との接点を作ることにより環境活動への入り口や場を充実させ、市民に親しみやすい取組とする工夫をしていくこと。</p> <p>④地域の慣習・歴史に対する市民の関心を高めることにより、地域の環境に興味を持ってもらうような工夫をしていくこと。</p> |

■委員の主な意見■

【白井の環境価値の位置付けの深堀】

- 白井はみどりが豊かであるが、その価値を市民は実感していない。
- 白井にはみどりの価値というものが当たり前にあって、その当たり前の価値を改めて意識するきっかけは何かということをもっと膨らませていく必要がある。
- 白井における環境価値のコンセプトを都市と自然環境の共存と捉えるならば、そういう視点から教育、日常生活、事業活動などに浸透させていき、白井のみどりの価値を改めて意識してもらうことが必要である。

【環境保全活動に対する認知度の向上】

- 市民の森の草刈りやグラウンドワークに参加した子どもの意見などをホームページに載せ、発信しても良い。
- 環境学習などの学びの場は、特定の市民に限定されがちであるため、参加していない市民にどのように普及し、広げていくのかを考える必要がある。
- それぞれの年代での学びを段階的に充実させて、学びから実践への活用を進めていく必要がある。
- 地域住民や自治会と連携して環境保全活動を展開すれば、市民の意識が高まっていく。

【環境保全活動への入り口や場の充実】

- 神々廻市民の森に一泊キャンプするなど、生活の中や自分なりの興味・関心から環境というものを意識できる新たな入口が必要である。
- ごみの分別、清掃活動や生ごみの利活用ということと、みどりを守るということが連動していない部分があるので、環境を守ることがどんな切り口であるのか、環境を守る活動にどう参加していけばいいのかを見せていく必要がある。
- 1つの活動が自治会や商店街など様々な主体に二次的に広がっていくようなイメージで、環境保全活動を面的に進めていって、白井なりの形を作っていけば良い。

【地域の環境への興味の醸成】

- 若い世代への教育として、環境啓発の物語をつくるようなコンクールがあっても良い。
- 環境とのかかわりは、地域によって伝説や地域慣習など様々な伝えられ方があるので、地域なりの守り方、白井なりの守り方を紐解いていくことが必要である。

【戦略2-3 みどりがつながるまちづくり】

| | |
|----------------|--|
| 重点戦略 | 2 みどり活用プロジェクト |
| 主担当部 | 市民環境経済部 |
| 主な取り組み | ○（仮称）谷田・清戸市民の森など里山の保全・活用 ○市民等によるみどりのネットワークづくりの推進 |
| 内部評価 (進捗状況) | やや遅れている |
| 外部評価 結果 | <p>総合評価は、A・B・C・Dの4段階のうち「B（優れている）」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>①取組ごとの対象者を明確にし、対象者に合わせて取組内容を見直していくこと。また、対象者ごとに異なるニーズを分析し、取組内容へ反映していくこと。</p> <p>②地域の環境に対して親しみ・興味をもち、環境活動へ主体的に関わっていく市民の裾野を広げるために、学校教育から生涯学習まで一貫して環境学習を積み重ねていくことができる体制を整えるとともに、環境活動の案内など必要な支援を行っていくこと。</p> <p>③「みどりでつなぐ」視点で様々な人・世代・分野をつなぐことができるように環境美化活動や諸団体の連携強化などの仲介や支援を行っていくこと。</p> <p>④様々な主体・資金・土地・労力などが持ち寄られ、みどりの環境価値を高めていくために、ランドワークなどの手法に磨きをかけ、多角的視点から市の資源としてのみどりを利活用していくこと。</p> |

■委員の主な意見■

【ターゲットの明確化】

- 環境保全活動団体が高齢化してくる中で、環境保全の担い手を増やすためには一般的な啓蒙や働きかけをしても難しいため、ターゲティングが必要である。
- 事業のターゲットが果たして今のままでいいのかという見直しは必要である。
- 白井で生まれ育った人と白井に移り住んだ人では、白井の自然に感じる立ち位置は異なるので、ターゲットは世代ということだけではなくて、白井の自然に対する意識という面からも考える必要がある。

【学校教育から生涯学習まで一貫した環境学習体制の構築】

- 市民が自分にとっての白井の自然がどういうものなのかを意識し、育まれる場がもっとあれば良い。
- 小学校、中学校、高等学校、さらには社会人になってもというように、子どもの頃から白井の環境に対する意識を高め、さらにそれを自分のこととして膨らませていけるステップを踏めるよう、学校教育から生涯教育の接合も必要である。

【様々な人・世代・分野のつなぎ】

- 現在の環境保全団体だけではマンパワーが足りないので、次世代の組織をつくることを前提に、様々な団体との連携により、環境保全活動に子どもから高齢者までが参加するようになれば良い。
- 白井にとって、みどりは様々な施策のコンセプトの中心になってくるので、福祉とみどり、子育てとみどりなど、みどりを様々な分野で捉えて可能性を開いていくことが必要である。

【多角的視点からのみどりの利活用】

- 「みどりがつながる」というよりも「みどりでつなげる」といったまちづくりの視点があると良い。
- 都市部的要素と自然環境の両方があるのが白井の魅力であり、都市的要素の中のみどりと里山的要素の中のみどりが、それぞれつながるという白井ならではのみどりの施策になっていければ良い。

【戦略3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり】

| | |
|----------------|--|
| 重点戦略 | 3 拠点創造プロジェクト |
| 主担当部 | 都市建設部 |
| 主な 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ○白井駅・西白井駅周辺への商業施設等の誘導 ○市民活動団体によるマルシェ開催の支援 ○白井工業団地への産業集積に向けたアクセス道路の整備 |
| 内部評価 (進捗状況) | おおむね順調 |
| 外部評価 結 果 | <p>総合評価は、A・B・C・Dの4段階のうち「B（優れている）」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>①市内の住民が交流するのか、観光・訪問者を増やしていくのか、市内外の人々の交流に重きを置くのかなど焦点を見定めながら、「にぎわい」の内容について様々な世代・立場・分野からの意見・アイデアを拾い上げていくため、市民参加型でコンセプトづくりに取り組み、そのコンセプトに沿った取組を展開していくこと。</p> <p>②空き商業店舗部分を活用した保育施設のように既存施設を有効活用し、様々な世代、性別の人々を集められるような喫茶店、ミニ図書館など地域内の滞留人口という視点を意識した多用途施設の整備や誘致について検討していくこと。</p> <p>③ときめきマルシェなど一定の成果を上げている事業についても、イベント等のにぎわいのみで終わらせるのではなく、事業者間や市民間の連携、起業支援など新たなステップにつなげていくこと。</p> |

■委員の主な意見■

【にぎわいのコンセプトづくり】

- 何をもってのにぎわいであるのかを深堀して、どこにターゲットを合わせて何をするのか、というコンセプトの洗い出しを徹底的にやって、焦点を定めていかないと成果につながってこない。
- 商業施設等を誘致することだけがにぎわいではなく、市民が何か積極的に取り組むことができる活動拠点をつくっていくなど、地域の方々が参加するような形でのにぎわいづくりなど、厚みのあるにぎわいを考えていく必要がある。
- にぎわいの在り方が市民のニーズに沿っているのかを検証する必要がある。
- 大きな商業施設によるにぎわいではなく、白井なりのにぎわいを考えていく必要がある。
- 商業的なにぎわいだけでなく、白井らしい文化的なにぎわいも大事である。

【多用途施設の整備・誘致】

- 駅前店舗の空きスペースを活用し、保育施設等を整備すれば、子どもを迎えに来て、さらに店舗を訪れるというにぎわいの在り方もあり得る。
- 公益的施設誘導地区には融合的なコンセプトで計画が進んでいるが、自治体によっては駅に小規模な預かり施設をつくるなど工夫しているところもあるので、1か所ではなく、小規模なものが網の目にちりばめられているということも、にぎわいにつながってくる。

【イベントによるにぎわいの新たなステップへの発展】

- 成功例となっているマルシェは、アンケートなどから次につなげる材料を見つけて発展させていった方が良い。
- マルシェが商品開発や起業につながっていくなど、様々な異分野をつないで市民の活力を活かしていくという視点があっても良い。

【戦略3-3 拠点がつながるまちづくり】

| | |
|----------------|--|
| 重点戦略 | 3 拠点創造プロジェクト |
| 主担当部 | 都市建設部 |
| 主な取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ○行政・市民・団体等をコーディネートする人材の発掘・育成 ○構想道路の計画化に向けた調査・研究 ○市道の新設、拡幅等の改良 ○循環バスの運行 ○北総線や沿線地域の活性化に向けた取組 |
| 内部評価 (進捗状況) | おおむね順調 |
| 外部評価 結 果 | <p>総合評価は、A・B・C・Dの4段階のうち「B（優れている）」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コーディネーターの育成について、市民間・市民と行政の間など、どの場面で何をどのように「つなぐ」のかを整理し、既存の地域リーダーから新規の人までを射程に入れつつも、現場でどのようなことが期待されるのかを見通しながら、その人材発掘や育成に努めていくこと。また、地区担当職員制度について、今後の方向性・活動のあり方をより明確化していくこと。 ②地域内・役所内・地域と役所をつないでいくナチュラルヘルパー（キーパーソン）の発掘・育成に努めていくこと。 ③個々の取組の現場から上がってくる意見をつないでいくという観点から、行政組織内部・専門職・地域それぞれにおいて、情報共有から資源活用までを包含する媒介機能を高める仕組みを検討していくこと。 ④まちづくりサポートセンターが今後どのような役割を果たしていくのかという将来像を具体化していくこと。 ⑤公共交通についてコストやニーズのバランスを踏まえるとともに、現行の発想や枠組みにとらわれることなく、シェアリング・エコノミーなど様々な地域資源を活かした市内移動のあり方を多角的に検討していくこと。また、循環バスのルート改正や道路計画の優先順位などに関する市民への情報発信を工夫していくこと。 |

■委員の主な意見■

【コーディネーターの役割の整理、発掘・育成】

- コーディネーター型職員研修を実施したのであれば、受講した職員が早急に地域に出ていかないと、市民参加という部分が全く動いていかない。
- 役所内をつなぐ、市民相互をつなぐ、市民と役所をつなぐという視点があるが、どこが強いのか、弱いのかについて、踏み込んだ検証が必要である。
- 市民と行政をつなぐ人材の育成というところが課題になってくる。

【ナチュラルヘルパー（キーパーソン）の発掘・育成】

- 役所の中にも、上司とも部下とも同僚ともという形で、人とのつながりの中心になっている人がいると思うので、そういう人を発掘する方法を考える必要がある。
- 講座を受けた市民と職員の連合チームを結成して、ある地域において実際の課題の発掘から課題解決までをモデル的にやっても良い。

【情報共有から資源活用までを包含する媒介機能の向上】

- コーディネーターを育成することは重要であるが、市民の声やアイデアを役所の中でしっかりと議論し、つないでいく組織環境が整っていないと、いくら人材育成をしても行政機能を高めていくことができないので、その両面を考えていく必要がある。
- 地域の現場の声を拾い上げていく難しさもあるが、その声をつないでいくという観点から、職員の行動の仕方や組織の在り方を検討する必要がある。

【まちづくりサポートセンターの将来像の具体化】

- まちサポの位置づけ、果たすべき役割について整理していくことが必要である。

【様々な地域資源を活かした市内移動のあり方の検討】

- コミュニティバスは、結節点での乗り換えがスムーズにできるようになれば、利便性も向上していく。
- 交通ネットワークは、市内だけでなく、隣接市と中継ぎができるなど、他市町村と連携した方法を検討しても良い。
- 交通ネットワークを公共交通のみで考えていくことの限界も同時に考える必要があり、シェアリングエコノミーが白井でどういう形であって、どのような交通網が将来的に必要とされるのかといったニーズの調査や分析を行い、その中で公共交通網を考えることが必要である。

4 各委員の評価結果

【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

■A 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|------------------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 市民の「働き方」への期待・ニーズをもっと分析すべきではないか。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 異業種交流から仕事を作るというところまでの「つなぎ」を充実させる必要 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | 生活スタイルの多様化に合わせた働く場を考える必要。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | |

《今後に向けた改善提案等》

- ・市内で働く魅力（高齢者が働く、ワークライフバランスなど）を掘り起こし、さらなる情報発信を行うべき。
- ・セカンドワーク・ミニビジネスなど新たな働き方に関する分析を進め、環境整備やマッチングのあり方について検討を進める必要。
- ・起業テーマの深掘りと具体化へ向けた段階的支援を充実させていくことが期待される。
- ・市全体における工業団地の位置付けの明確化を図り、雇用・労働環境・道路・交通を考えるべき。

■B 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | PR=Public Relations。Relationsの方を特に丁寧に取組む必要がある。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | 会議の議論の中で少し見えてきた。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 引き続き議論する必要がある。 |

| | | | |
|--------|---------------------|---|--------------------------|
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | ただし、しっかり議論できれば、という前提である。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・評価と方向性がかみ合っていない印象がある。そのため、方向性（特に Outcome）を意識して戦略的に行う必要がある。新しい事業が多いので、成果はまだ出ていないが、方向性を見える化することで施策の透明性が高くなる。 |
|---|

■C 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|-------|-----------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | BとCの間 | 戦略がわかりにくい。（4つの取組の重点は） |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・他の同規模の似たような課題を抱える自治体（八千代市？）との勉強会、選択と集中（4を2にするなど） |
|---|

■D 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------|------------------------|----|------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 市民と連携・共有することは大事なことである。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 継続することで必ず結果はでる。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |

| | | | |
|--------|------------------------|---|--|
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | A | |

《今後に向けた改善提案等》

- ・ これからも期待のできる施策である。
- ・ 工業団地以外にも身近で働ける場づくりについて、思い切った事業展開を模索していく必要があると感じる。

■E 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 若い世代定住プロジェクトという位置づけでは少しズレを感じるが、今後、人口減少を食い止める施策として重要なテーマと思われる。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

- ・ 少し古くはなったが、産業振興条例づくり時点でのアンケート調査の参照。
- ・ 鎌ヶ谷市、印西市との歳入の構成、取り組みの差異の明確化
- ・ 内容が多岐にわたり、委員のプロジェクトへの関心、知識に開きが大きいこと、またこの委員会での在任期間の違いも大きいようにも思われて、結論が特定の方向に偏らないようにする必要を感じる。

■F 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 若い世代定住プロジェクトの1つとして、多岐に渡る取組であることは評価できる。まだまだ、改善の余地はあるが発展性も見込める。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | 市役所内に無料職業紹介所があること、市内のみでなく周辺市と連携して若者からシニアまで幅広く就職支援セミナーを開催していることについて評価できる。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 産業振興ネットワークなどもっと有効に活用していくべきである。 異業種・異分野間の交流の充実を図る。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 市内に働く場が充実していると思う若い世代の割合は実績値として減っている。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | 短期的な方向性は妥当である。 中長期的方向性で「市外よりも市内で働く市民が増えるような」とあるが、周辺市からもしろいで働きたいと思われるような企業の誘致を行うことが大切である。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 取組4つのうち、何に力を入れようとしているのか、またそれぞれの取組がどのように発展していくのか現段階ではつかみにくい。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | 課題は多いが、様々な視点、角度から問題を捉え取り組んでいることは評価できる。 |

《 今後に向けた改善提案等 》

- ・市内企業・店舗を増やす。(16号線沿いや公益施設誘導地域など)
- ・近隣市との連携は今後も必要。(合同就職セミナーなど)
- ・休耕地や空き家を利用して週末だけの移住からの定住への可能性。(市内での就農・起業などに興味を持ってもらう手段として)
- ・白井工業団地をもっと市民に知ってもらう手段として、企業紹介などを広報に載せてはどうか。(工業団地外の市内の企業も)

■G 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------|------------------------|----|--|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | t o Cの取り組みが欠けているように感じる。行事やイベントは多いが、本当に市民が求めているものになっているか？ |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | 場は設けられているが、本当の意味での連携が採れているか、実際の運動・活動につながっているか見えてこない。 |

| | | | |
|--------|------------------------|---|---|
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 雇用や駅前店舗の誘致などについては、まだまだ解決しなければならない点が多い。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | 働く場をつくるという方向性は大賛成。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 残念ながら市民に伝わっていない。特に若い人への発信方法は現状のままでいいのか？(web、SNS、スマホアプリなどの利活用) |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | 様々な取り組みの内容自体は評価できるが、その結果からの次のステップが見えてこない。実践に繋がっていないのでは？ |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・既存の取り組みの評価方法の再考（アウトカムの部分の分析）を。「場を作り話し合った」で終わらず、「ではそれを受けて次どうするか？」練るための場も必要。 ・実践する人材の育成（農・工・商それぞれの当事者）。できれば30～50歳がよいと思う。 ・若い世代に向けた情報発信とコンテンツの作成。作って終わりではなく、その効果測定も。 ・小さくてもいいので農工商の連携モデルを作れないか？（NPO法人など） |
|---|

【戦略2-2 みどりが価値を生み出すまちづくり】

■A委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--------------------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 短期的な学びの場としては様々な取り組みがなされているが、相互連関が弱い。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | 分野をまたいだ学びの場が不十分。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 中長期的な展望が曖昧という印象。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの価値をもっと幅広く共有していくために、市民の日常生活の中に考えるきっかけを埋め込んでいく必要がある。 ・地域での保全体験を積み重ねていくためにも、多角的な保全方法を普及させるべき。 ・小中高の学校教育、さらには生涯学習までを含め、環境学習を積み重ねて実践していくことができる体制を整えるべきではないか。参加と学びのスパイラルを具現化しうるプログラム開発が必要。 |
|---|

■B 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 勉強会の時に、複数の委員の発言への回答にズレが見られる。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | 庁内外との連携が見られる点で評価できる。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 実際のところ、成果が見られる段階にない。そのため、プロセス評価を見える化する必要がある。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | A | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

- ・学校教育への介入は、系統性を踏まえた教育プログラムの検討が必要である。
- ・学んだことを普及させる仕組みもあると良い。
- ・現時点では学びが中心である。学びの機会を提供する事業者との協働がより一層強化されると良い。

■C 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|-------|-----------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | BとCの間 | 子どもへの環境教育を面展開していく戦略不足 |

《今後に向けた改善提案等》

・各世代・属性ごとの教育内容の開発（子ども期も長い、定年退職後、家庭で3Rや堆肥化と関連付け）

■D 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| |
|--|

■E 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

- ・白井市は緑豊かな街と思っていたが、森林面積は14%と減少傾向にあり、3つの市民の森は現状を維持していく必要を感じる。市街地に隣接しているのもう少し、活用の方向が必要。
- ・市民が休日を利用して出かけるには、少し規模が小さすぎて、活用例のアイデアが必要。

■F 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 「みどり」を守り育むための取組が神々廻市民の森のグラウンドワーク活動と子どもたちの環境学習に偏っている感があるが、それが第一歩としての短期目標であれば、手段として外れていないように思う。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | 森、原っぱ、川など白井の良質な自然環境を守り育む取組は、市民のニーズに即している。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | シルバー人材センター・市民団体・大学 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 神々廻市民の森でのグラウンドワーク活動も里山学校も環境フォーラムも市民の認知度は高くない。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 市民が市内の自然環境について、もっと興味関心を持てるように認知度をさらに高める必要がある、とあるがそこで生じる問題や課題が明示されておらず、わかりにくい。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | まずは、小中学校の授業で環境学習を実施、神々廻の森での活動を継続して広めるための資金調達をガバメントクラウドファンディングで行うことは妥当と思われる。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 市が市民にこの施策を知り、どう行動して欲しいのかが分かりづらい。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | 市民の自然環境に関する関心を高める事業の一つとして期待する。大学や市民団体と協働している点もよいと思うが、現在のやり方では一部の市民にしか認知できないため、施策目標の達成が難しいと思う。 |

《今後に向けた改善提案等》

- ・森や原っぱなど市の良質な自然を守り育む活動に市が取り組んでいることをもっと知ってもらって市民の関心を高めてほしい事業である。そのためには、小学校の環境学習を手始めに、幼稚園・保育園と裾野を広げ、子どもを通し、親世代を巻き込んで関心を広げていく。
- ・森の小草をシルバー人材センターが刈っていることなど、地味なことでもPRしていくことも良いのではと思う。
- ・グラウンドワークや環境学習の主催者側でなく参加した人の意見・感想が取り上げられる場があってもよいのでは思う。
- ・さらに活動を知り、神々廻の森へちょっとでも訪れたいなと思った市民のために「運動公園の駐車場が〇台なら使用できます」くらいのお知らせが、HPや現地看板等であってよいと思う。

【戦略2-3 みどりがつながるまちづくり】

■A 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 他の分野において「みどり」がどのような関連を持ちうるか、再度浸透させていくべき。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | もっと自然と都市との共存を前面に打ち出したコンセプトを練り直すべきではないか。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・みどりがつながるというコンセプトが十分に詰められていないと思われる。 ・みどりのネットワークとは、自然それ自体の価値化を意味するのか、あるいは自然と都市との共存という点に重点を置くのか。それによって取り組み内容が大きく変わってくるのではないか。 ・どの活動をいかなる方々が担うのか、その包括的なイメージが不十分ゆえ、既存の取り組みとこれから必要とされる取り組みの交通整理と戦略ができていないように思われる。 |
|--|

■B 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 本項目の評価の重みは高い。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | 同上 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 特に取組1については、ターゲットはこれでよいか？ |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |

| | | | |
|------|---------|---|----------------------------|
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | 30 数件と交渉中とのことから、受け身の印象がある。 |
|------|---------|---|----------------------------|

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・小規模でいいので、環境影響評価を実施してはどうか。関係者を巻き込み議論する際のツールにする。 ・そのほかの市の施策についても、環境を中心コンセプトに据えるための工夫を図ってはどうか。(ロジックモデルを作成し、各課・係の壁に貼る、パウチして職員に持たせる、審議会で机上資料とする、など。) |
|---|

■C 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント (自由記入) |
|--------|------------------------|-------|------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | Cに近いB | 緑を保全活用するに十分な市民団体をどう育成？ |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| 保全を超えた活用の取組を打ち出すことで担い手の裾野を広げることが大事かと思う。 |
|---|

■H 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント (自由記入) |
|--------|------------------------|----|-------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | D | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |

| | | | |
|--------|---------------------|---|--|
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・見ぬ地もあるため特に長期的にみるものである。土地買収が絡んでいるため、課題が多い。みどりは、保全も必要・大切であるため、整備だけでなく、市民が安全と思える基盤整備も必要である。 |
|---|

■I 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 市民ニーズの調査をすべきである。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民の森（所沢、中木戸）の案内板を道路に設置する必要がある。 ・カンナ街道だけでなく、他の道路も考えるべきである。 ・白井市の花（サツキ）をもっと前面に出すべきである。 |
|---|

■J 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------|------------------------|-------|------------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | 街路樹の整備が必要になっている老木がある。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | みどりのネットワーク（緑化事業・花植え等）が進んでいる。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 各団体の横連携が充分とは思えない。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | BとCの間 | 取組状況から判断すると成果が上がっているとは思えない。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | BとCの間 | |

| | | | |
|--------|------------------------|-------|--------------------------------|
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | BとCの間 | 目標にポイント（要点）が見られない。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | BとCの間 | 着眼点がわからない。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 戦略 みどりがつながるまちづくりは住民には不明な場所が多い。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | 具体的な計画を住民に示す必要がある。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・谷田・清戸の森の整備等は自然体系を残しながら、水源保護林あるいは公園として人工的に再生されるのもよい。どのような形にするのが望ましいのか研究を重ねてほしい。 ・次世代は必要に応じて修正を加え長期的な展望と柔軟性をもって進めていくことが良いのではないかと考える。 <p>「誰もが心安らかにすごせるまち」</p> |
|--|

■K 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | みどりでつなぐ具体的な取組内容を示してほしい。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 市民がみどりに満足していても、お気に入りの自然の場が少ないことを課題として考えるべきである。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 市民だけではなく、市外やインバウンドを考えれば、白井散策マップに示されているコース等との組み合わせを考えてはどうか。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | みどりのネットワークづくりでは成果が出ていると思う。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | 今ある市民の森も整備し、市民の憩いの場となるように改善すべきである。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 谷田・清戸市民の森の整備についての実務は分かったが、他の市民の森の整備についても課題としてほしい。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | 市民が気楽に参加できるような啓発活動をして、裾野を広げてもらいたい。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | “市民の森”がどこにあるのかも知らない市民が多い。広報を活用したり、小中学校の授業に組み込んだりして、身近に感じられる工夫を。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | 自然豊かな街を、カナナ街道再生のように市民と共に取組むことに評価。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・“ウォーキングや散策等の活用が求められている”という中で、近隣市との連携を考えてはどうか。 ・新たな道路整備ではなく、今ある道路を生かし、例えば、印旛沼周辺のサイクリングロードのカナナ街道への組み込みや、北総鉄道と協力したサイクリング電車の運行、駅でのレンタサイクル等を検討できないだろうか。車は無理（駐車場問題）でも今井の桜への道を自転車なら地元の景観を損ねないかもしれない。 |
|---|

■L 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 「市民の森」についてさらに、PRすべきである。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | 取組1については、評価できるが、取組2については、市民活動団体とのさらなる連携を推進すべきである。 |

《今後に向けた改善提案等》

- ・「(仮称) 谷田・清戸市民の森」の保全・活用については、評価できるが、既存の市民の森の整備・活用も図るべきである。
- ・「(仮称) まちづくり協議会」のテーマに地域の緑の保全・整備を加えることで、「みどりのネットワーク」が広がるのではないか。

【戦略3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり】

■A 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | にぎわいの創出である以上、資源が結びついていく「入口」や「機会」をもっと多様に作り出していくべき。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 関係人口の発想をもっと取り入れ、賑わいの誘因を作り出していく必要。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |

| | | | |
|----------|---------|---|--|
| 総合 評価 | 施策の総合評価 | B | |
|----------|---------|---|--|

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・何をもつての「賑わい」なのかが十分に詰められていないので、個々の取り組みにおける重点の置き方や戦略の立て方に曖昧さが残っている。 ・当事者目線からの人の流れを捉えるとともに、地域住民の参加・参画意欲をしっかりと汲み取っていくことが必要である。 ・起業・マルシェなど、拠点における新たな資源の活用やチャレンジの機会を多角的に創出していくことが重要ではないか。 |
|---|

■B 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------------|------------------------|----|--|
| 取組 状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・ 方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 試行錯誤感がある。イベント系の前後評価を含め、形成的評価（現状分析）を徹底したほうがよいと思われる。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | Input と Output を具体的に示した方がよい。 |
| 分かり やすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合 評価 | 施策の総合評価 | B | とても広い。市民を巻き込む施策なだけに、より一層の発展が期待される。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・職員の市民（団体）との交渉スキルについて学習機会があると良い。 ・人を滞留させる仕組みがあると良いのではないか。（例：図書室など文化拠点、潤い、道の駅、商店街？など。） |
|--|

■C 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|----------|------------------------|----|------------|
| 取組 状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |

| | | | |
|--------|------------------------|-------|--|
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | Cに近いB | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい（賑やかしではない）が具体的に定義されない限り取組も曖昧になると思われる。 |
|--|

■H 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・マルシェの成功をさらにプラスの副作用となるように、ネットワーク・連携、協力、商品開発の可能性等を含めた繋がりを役所が担う。例えば、アンケートをとり、マッチングを促す等が考えられる。 |
|---|

■I 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | 市民ニーズの調査を更にすべきである。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | 工業団地のアクセス道路は順調である。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | おおむね妥当である。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

- ・ 駅周辺でのミニマルシェを検討してほしい。
- ・ 工業団地へのアクセスの早急な対応を検討してほしい。

■J 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|-------|--|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 工業団地の取組は道路の問題を含め、事業が進められているが、駅前商業施設の活性化の取組が充分ではない。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | 高齢化社会対応が充分とは言えない。 （日常生活用品等の買物運搬） |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | 市民ニーズの調査を更にすべきだと思う。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | 駅前商店の活性化に向けて再考の余地はあるものの工業団地は目標に向けて着実に展開されている。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | BとCの間 | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | 駅前商店街事業者と行政との協議が図られているのか。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | 市の中心核となる商店街の在り方としては再検討。（空き店舗） |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | 以前より記事はわかりやすくなっている。 見る広報紙（写真・イラストが多い） |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | B評価としたが、駅前周辺は白井の窓口なので充分検討が必要。 |

《今後に向けた改善提案等》

駅前周辺に憩いの場（軽食が出来、市内外の交流の場）が必要

■K 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 工業団地の機能充実が産業のにぎわいをつくるのは評価できるが、“まちのにぎわい”作りはまだ抽象的に感じる。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 取組については特に白井駅周辺では市民の要望に応えられていない。店舗作りが無理なら、文化的発想のにぎわい作りを検討してもと思う。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 文章上でしか見えてこない。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | アクセス道路に関しては、まちの“にぎわい”作りより進んでいるように思える。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | 白井駅周辺のにぎわいは夏祭りのみで、マルシェもイベントも一時しのぎ。若い人が常に集う魅力ある駅前への支援を。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 工業団地アクセス道路の整備＝産業の活性化となるように期待したい。しかし白井市の特徴である“みどり”への配慮を十分にしたい。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 駅周辺でのイベントなど、市民団体の自立を促す方策への市のかかわり方を明確にすべきである。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | まちのにぎわいづくりには市民は敏感である。もっと情報提供をして欲しい。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | 市の玄関である白井駅前が余りにもさびしく、“集う”“にぎわい”からはなれすぎている。 |

《今後に向けた改善提案等》

・“まちづくり”では各地域で若者定住の策を練っている。ある地域では高校生との意見交換で、貴重な意見が出たとの報告もある。白井市でも高校生や若い人の意見を取り入れてはどうか。
 ・商業施設では規模よりも特色があり、市外からも集客できる店舗作りに期待したい。例えば取手駅ビル内の小規模成城石井（スーパーマーケット）、成田や勝田台の高倉町珈琲（コーヒーチェーン店の名称）等。

■L 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | 何をもって「にぎわい」とするのか、定義が曖昧なままの取組になっている。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 駅周辺に憩える場所が少ない。マルシェやイベント以外の発想が必要である。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | 市役所周辺の施設計画は評価できるが、2駅周辺の「にぎわい」創出については不十分である。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 文化的な「にぎわい」の視点が欠如している。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | B評価としたが、BとCの中間と捉えている。 |

《今後に向けた改善提案等》

- ・商・工業中心の「にぎわい」だけでなく、文化的な視点での「にぎわい」にも着目して欲しい。例えば、図書館の分館の整備、駅周辺の憩いの場の整備、歴史的文化財の活用等も検討していく必要がある。
- ・周辺市町のまねをするのではなく、身の丈にあった白井市らしさのある集客施設を誘致すべきではないか。

【戦略3-3 拠点がつながるまちづくり】

■A 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|---|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | コーディネートの内容が明らかにされておらず、職員と市民との協働的關係が不十分。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | D | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 公共交通については、さらなる工夫や新たな発想を検討していく必要がある。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |

| | | | |
|----------|---------|---|--|
| 総合 評価 | 施策の総合評価 | C | |
|----------|---------|---|--|

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・拠点をつなぐとはいえ、「人材コーディネート」「道路」「交通」を一つの施策にまとめることは、評価の点において無理があると思われる。 ・ソフト面での連携強化は必要だが、もっと具体的な課題や取り組み状況の中で、何を目的としてどのようなことを具現化させるのかを明らかにしながら位置づけることが必要である。 |
|--|

■B 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------------|------------------------|----|--------------------------------------|
| 取組 状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | コーディネーター事業（生涯学習系）は、他課事業の集約・整理の余地がある。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |
| 課題・ 方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かり やすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 取組2に多くの要素が集約されている。評価の見せ方の工夫をしたほうが良い。 |
| 総合 評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな試みをしており興味深い。それだけに、評価の見せ方として、InputとOutputを示し取組状況を見える化する。このことで戦略を詰めていくことができるのではと思われる。 ・庁内での調整が図れる分野が沢山あると思われるので、ぜひ検討していただきたい。 ・Natural helper さがしを庁内でもすると良いと思われる。 ・地域担当職員制度は、災害時の初動要員と連動させ、平時からのコミュニティ介入を行っていただきたい。 |
|--|

■C 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|----------|------------------------|----|------------|
| 取組 状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |

| | | | |
|--------|------------------------|---|--------------------|
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | ソフト面が遅れ、ハード面の指標も低下 |

《今後に向けた改善提案等》

・住民主体の地域づくりの担い手を作り出すにはそれぞれのアクターにどんな能力が必要か見極める。

■H 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | |

《今後に向けた改善提案等》

・バスルートは、他の市町村との連携し、広域的な考えも必要ではないか。北総線の運賃に対する不満が多いとあるが、北総線に対しての市としての取り組みの方向性を決め、バスにシフトするののかも含めて市の方向性を決めることが必要である。

■I 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------|------------------------|----|--------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | コーディネーターはC 交通ネットワークはB |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | B | ナッシー号は誤解が多いと思われる。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | B | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | |

| | | | |
|--------|------------------------|---|--|
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | B | |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | B | |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ナッシー号は、「市内循環バス」であるとのPRがなされていない。 ・道路計画は必要であるが、5ヶ年計画では無理がある。 ・まちサポの利用促進を図るべきである。 |
|---|

■J 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|--------------------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | C | 道路フェンスの整備と公共交通の見直しに市民の声が反映されているのか。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 市民生活に密着した課題である。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | 十分に図られていないように思う。 |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 行政対応は道路問題、交通ネットワークは特に市民に障害が起こっている。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | B | 文言では進捗状況は見えるが、現状はどうか。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 道路整備の促進。 ナッシー号のルート改善と北総線の運賃値下げは？ |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 上記問題の改善の必要性が考えられる。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 広報紙は読みやすくなったが、ホームページは誰もがPCを使うとは限らない。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | 市民の重点施策なので事業計画をしっかりと市民に情報発信してほしい。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ナッシー号と民間路線バスを市民にとって一番便利になるのか再検討をしてほしい。 ・行政と9地区社協、民生委員とのまちづくり協議会まで研修をしてほしい。（高齢者、障害者にとって住みやすいまちづくり） |
|---|

■K 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|------|------------------------|----|--|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | 拠点間をつなぐコーディネートできる人材育成は評価できるが、小学校区単位のまちづくりでどのように発揮されるか困難を感じる。 |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 取組3の利便性の良い交通ネットワークの確保は市の考えと市民の間に温度差を感じる。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | C | “交通ネットワークの利便性について”市民の声に耳を傾けるべきである。 |

| | | | |
|--------|------------------------|---|---|
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | 取組方針の“拠点間を移動しやすいよう-”は現実と逆行している感がある。 |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | 市内を移動する際に不便を感じる市民の割合が増加しているのは運行ルート変更等に問題があると思われる。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | C | 営利事業は成り立たないかもしれないが、交通弱者の為の方策をもっと考えるべきである。 |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 鉄道の高運賃対策等は他市との連携が重要。今後の交通網について踏み込んだ方向性を出すべきである。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | B | 地域づくりの活性化で市民が主体的に進める必要、とあるが、もっと情報を共有できる工夫をして欲しい。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | “公共交通ネットワークを構築し、移動の利便性を高める”に反する現実がある。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・道路ネットワークの整備について、東京近郊の恵まれた環境を使って、新交通システムの試験運行地域となつてはどうか。オンデマンドバスや自動運転バス等の運行を既存の道路網を活用して試してはどうか。 |
|---|

■L 委員

| 項目 | 内容 | 評価 | コメント（自由記入） |
|--------|------------------------|----|-------------------------------------|
| 取組状況 | 目標実現に資する取組となっているか。 | B | |
| | 市民ニーズに即した取組となっているか。 | C | 取組3については、市民ニーズに逆行している。 |
| | 他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 | B | |
| 成果 | 目標実現に向けて成果は上がっているか。 | C | |
| | 1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 | C | 取組1・3については、順調とは言い難い。 |
| 課題・方向性 | 今後の課題・問題点が的確に捉えられているか。 | B | |
| | 今後の方向性は妥当か。 | C | 交通弱者を救済する具体策に乏しい。 |
| 分かりやすさ | 市民に分かりやすい記載となっているか。 | C | 「地域づくりコーディネーター」や市道の整備状況についてPR不足である。 |
| 総合評価 | 施策の総合評価 | C | 取組1については、ある程度評価できるが、取組2・3については不十分。 |

《今後に向けた改善提案等》

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・人・地域づくりと交通・道路ネットワークづくりというソフト面とハード面とを同じ土俵で評価すること自体に無理があるのではないか。 ・交通弱者を増やすような地域公共交通の在り方は、見直すべきである。また、北総線の運賃値下げに、市として真剣に取り組むべきである。 |
|---|

5 今後の外部評価に向けて

白井市の行政評価制度の充実に向けて、当審議会の総括的な意見を以下のとおり述べる。

(1) 評価手法について

- 総合評価は、「A（特に優れている）・B（優れている）・C（劣っている）・D（特に劣っている）」の4段階評価ではなく、BとCの間を細分化した方が良い。
- 他の自治体等との相互比較の中で、客観的に白井が置かれている現状を把握し、どこに力を入れていくべきかをあぶり出していける情報をもっと必要である。
- 政策・施策・事務事業のそれぞれのレベルにおいて、どう課題に対応し、どのような変化を求めるのかという客観的な成果目標を立てた上で、現実として何ほどのくらい変化したかを測り、次のプロセスに結び付けていくことが必要である。
- 目標を達成できない場合に、施策や事業の組み立て方に問題があったのか、外的要因によるものなのか、もっと別の要因によるものか、さまざまな角度からあぶり出して、実情を把握する必要がある。
- 計画策定の段階では分野横断的に取り組んでいくという組み立てをしたが、事業管理をしていく中では縦割りに戻ってしまうため、横断的な部分を捉えて評価し、次の動きとして何をすべきかを確認した上で、個々の事業にフィードバックしていくという評価モデルを構築する必要がある。
- 総合計画は、職員が常に立ち返るものであり、自らの施策・事業が計画体系の中でどの位置を占めていて、他の施策・事業とどのような連関性を持っているかを日々意識した上で、できている部分とできていない部分を確認し、できていない部分に対して翌年度どういうふうに補充していくかを考えるといったような、上から俯瞰した見方が職員には必要である。評価体制だけ構築されていても、職員が事業計画を運用する中で意識していなければ、効果は半減する。
- ロジックモデルのほかにも、コミュニティ開発で使っているロジカルフレームワークというものがあり、1つのプロジェクトについて目標と成果を立て、原因と結果の連鎖関係を組み立て、プロジェクトに影響を及ぼす外部条件までも特定するもので、割とシンプルなため参考にしてほしい。
- 総合計画をつくること、その進捗管理をすること、評価することが有機的につながっていない部分があるので、来年度から始まる後期基本計画の策定作業と合わせて、本格的に検討していく必要がある。

(2) その他

- ワークショップは、職員と委員の双方が施策や事業の実情等を共有するために有効なプロセスであったので、評価の後に実施するのではなくて、評価の前に実施した方が良い。
- 今回のワークショップは総花的になってしまったので、職員と委員が話し合いたいテーマを2つくらいに絞って、それを深堀していくと良い。

参 考 資 料

施策評価シート(外部評価時点)

1 基本情報

| | | | | | | | | | |
|-----|---------------------|---------|------|-------|-------|--------------|--|--|--|
| 施策名 | 1 - 2 働く場を生み出すまちづくり | | | | 戦略名 | 若い世代定住プロジェクト | | | |
| 担当 | 主担当部 | 市民環境経済部 | 主担当課 | 産業振興課 | | | | | |
| | 部長名 | 湯浅 章吾 | 関係課 | 都市計画課 | 企画政策課 | | | | |

2 取組目標(Plan)

| | |
|------|--|
| 取組目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●農商工の連携や未利用地等への企業立地の誘導などにより、若い世代の雇用機会を広げます。 ●地域を舞台として多様な世代が様々な活動の実践を通じて新たな事業を起こすなど、地域の中で働ける場づくりを進めます。 |
|------|--|

3 平成29年度取組状況(Do①)

取組1 工業団地などにおける市民の雇用拡大

| | | | | | | |
|------|---|------------|--------|------|-----|----|
| 取組方針 | 工業団地見学ツアーなどを通じて、工業団地の魅力を発信し、市民雇用の拡大につなげます。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・白井工業団地産業振興センターの公開（製品、パンフレット等展示）や白井工業団地WEBサイト（約200社のPR動画を掲載）の公開により、白井工業団地及び白井工業団地に立地する企業の魅力を発信した。 ・雇用促進策として無料職業紹介所を運営するとともに、周辺市と連携し、若者向け、女性向け、高齢者向けの就職活動支援セミナーなどを開催した。 ・中学生や高校生などを対象に、白井工業団地に興味・関心を持ってもらい、仕事について考えるヒントとなるよう、白井工業団地内企業の「社長さんの話を聞こう」と題した講演会を開催した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 6 | 白井工業団地PR事業 | 改善して継続 | | | |
| | 7 | 雇用・労働支援事業 | 改善して継続 | | | |

取組2 異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援

| | | | | | | |
|------|--|--------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 農商工の連携をはじめ、事業者や市民団体などの交流・連携の機会をつくります。 | | | | | |
| 取組内容 | 農・商・工・市民・金融機関の代表で構成する産業振興ネットワーク会議を3回(7月・10月・2月)開催するとともに、一般社団法人日本塑性加工学会関東支部、白井工業団地と市との共催により異業種交流会を開催し、異業種・異分野間の交流を促進した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 8 | 異業種・異分野間交流事業 | 現状のまま継続 | | | |

取組3 未利用地や幹線道路沿道等における開発誘導

| | | | | | | |
|------|---|-------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 羽田空港と成田空港の間地点にあり、国道16号が通過しているという白井市の立地特性を活かし、企業等の進出を誘導します。 | | | | | |
| 取組内容 | 平成28年度に策定した「市街化調整区域における地区計画の運用基準」により、国道16号沿道における土地利用について企業からの都市計画提案を促すためのアドバイスや事前ヒアリングを行った。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 9 | 幹線道路沿道活性化事業 | 現状のまま継続 | | | |

取組4 起業希望者に対する支援のしくみづくりや起業を意識した学習機会の提供

| | | | | | | |
|------|---|-----------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 起業を希望する若い世代の起業時の負担を軽減するとともに、起業家との交流や起業に必要な知識を学ぶ機会をつくります。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・起業家交流会in白井を開催し、起業家同士の情報交換や人的ネットワークの形成を支援した。(企業・起業予定者・支援機関等80名が参加、市内起業家の成功事例発表・ビジネスコンテスト・異業種交流会を実施) ・商工会や金融機関等の関係機関が連携して起業家を支援するネットワークの構築を定めた創業支援事業計画を策定した。 ・商工会にワンストップの創業相談窓口を開設するとともに、経営・創業なんでも相談の窓口を開設した。(経営創業なんでも相談：毎月第2火曜日 相談員 千葉県能率協会) ・女性向けの起業学習講座「イベント・マルシェ企画運営講座」全5回を開催するとともに、「白井フェミナスハートプラス」を青少年女性センターで開催し、女性の多様な生き方、働き方を考える機会を提供した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 10 | 創業支援事業 | 現状のまま継続 | | | |
| | 11 | 起業学習・体験事業 | 改善して継続 | | | |

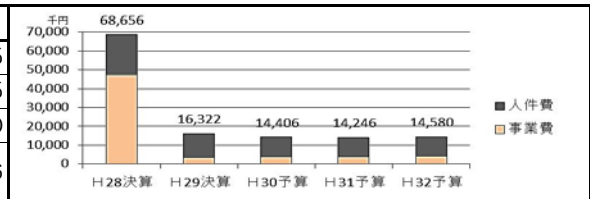
4 施策展開の状況(Do②)

| | | | | | | |
|-------------|---|--|--|--|--|--|
| 改善した取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業進出を図るため、都市マスタープランの公益的施設誘導地区に進出する企業へのインセンティブ（関係機関等との協議の支援、企業の負担軽減策など）を検討した。 ・創業支援策を強化するため、創業支援事業計画を策定し、地域の強みを生かした創業支援体制を構築するとともに、千葉県や関係課が連携して、市で初めての起業家交流会を実施した。 ・高齢化社会に向けた雇用支援策として、近隣市と連携して、女性や高齢者を対象とした就職活動支援セミナーを例年を上回る4回実施したほか、企業と連携してシニア向けお仕事説明会を開催した。 | | | | | |
| 他分野・他施策との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスタープランの公益的施設誘導地区への企業進出を促進するため、進出企業に対するインセンティブ（関係機関等との協議の支援、企業の負担軽減策など）を産業振興部門と都市建設部門が連携して検討した。 ・地域包括支援センターで実施している「高齢者向けの就職マッチングイベント」と産業振興部門で実施する「若者向けの就職マッチングイベント」を合同で開催することとした。 | | | | | |

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

| | H28決算 | H29決算 | H30予算 | H31予算 | H32予算 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 事業費 | 47,489 | 3,603 | 4,071 | 3,911 | 4,245 |
| 人件費 | 21,167 | 12,719 | 10,335 | 10,335 | 10,335 |
| 合計 | 68,656 | 16,322 | 14,406 | 14,246 | 14,580 |
| プロジェクト内割合 | 15.9 | 4.0 | 3.2 | 2.3 | 2.6 |



6 1次評価(Check①&Action①)

| 定量的評価 | 施策指標名 | 単位 | 基準値/基準年度 | | 目標値 | 実績値 | | | | | | |
|---------------|--|----|----------|-------|---|---|-------|-------|-------|-------|--|--|
| | | | | | H32年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 | | |
| | 市内に働く場が充実していると思う若い世代の割合 | % | - | - | 34.0 | 18.2 | 8.7 | | | | | |
| | 白井工業団地市民雇用率 | % | 15.7 | (H27) | 23.0 | 15.7 | 15.7 | | | | | |
| | 年間商品販売額(小売・卸売業) | 万円 | 76,194 | (H24) | 76,194 | - | - | | | | | |
| | 新産業創出数 | | - | - | 2 | 0 | 1 | | | | | |
| 定性的評価 | 白井で働く場を生み出すまちづくりを進めるためには、企業の事業環境を整えながら、雇用を拡大する市内企業の増加や雇用に結びつく企業の進出誘致、あるいは起業・創業者の増加を図ることなどが求められるが、企業や起業を希望する者に対する環境整備として、「創業支援事業計画」の策定や「市街化調整区域における地区計画の運用基準」の運用、起業学習の場や交流会等の開催を行い、今後への基盤を築くことができた。 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 進捗状況 <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている | | | | | | |
| 課題 | 喫緊の課題 | | | | 中長期的な課題 | | | | | | | |
| | 働く場を生み出す現実的側面として、市内企業の雇用拡大を促進する必要がある。また、市内での雇用や就労を推進する上で、通勤環境の整備などのニーズを把握する必要がある。さらに、工業用地や商業用地が不足している現状にある中で、企業の進出や事業拡大のために、事業用地を確保できるようにしていく必要がある。 | | | | 日本の定期借地権制度が成立以来20年以上を経過し、この制度を利用して市内に進出した企業が10数年以内に事業用定期借地権満了を迎え、市外に転出する大規模店舗等の発生も予想されるため、働く場の維持や充実に向けて、駅前等での再開発や店舗誘致等の準備を進める必要がある。また、今後企業等でのAI活用やテレワーク導入の推進が見込まれ、雇用や就業に大きな影響を及ぼす可能性があるため、これに対応できる市民や市内企業を育成しつつ、働く場の確保を図る必要がある。 | | | | | | | |
| 施策の方向性(改善策) | 短期的な方向性 | | | | 中長期的な方向性 | | | | | | | |
| | 市内企業の雇用拡大のため、市内企業のPR等を継続的に支援して企業間取引を促進させる。また、雇用や就労における企業や市民のニーズを把握し、市内で雇用や就業が進む環境を検討していく。さらに、事業用地が確保できるよう、市街化調整区域の開発許可にあたって都市マスタープランの土地利用方針を受け「市街化調整区域における地区計画の運用基準」を示しながら事業用地を誘導していく。 | | | | 市外よりも市内で働く市民が増えるような開発誘導計画の立案、様々な世代が働ける業種・業態の誘致を図るとともに、新時代の創業者を育て、市内に人を呼び込む新規事業の創造などを支援していく。 | | | | | | | |
| 施策を取り巻く環境の変化 | 少子高齢化の一層の進展により、働き方改革が進められており、様々な世代が様々な形態をとって就業する環境整備が求められている。 | | | | | | | | | | | |
| 市民と行政の役割分担・協働 | <input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 産業振興策をはじめとした施策の立案に当たっては、市民、行政、事業者が連携して取り組む。 | | | | | | | | | | | |

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・市の税収を確保するため、新たな企業の進出を促進する取組や市民の創業を支援する取組を強化すること。
- ・今後の高齢化の進展を踏まえ、若い世代だけでなく、女性や高齢者の雇用を確保する取組も併せて進めること。
- ・市内の中小企業を支援し、中小企業の活性化、市内雇用の促進、市の税収の確保というプラスのスパイラルを生みだし、地域経済の循環を促進すること。
- ・学校等を通じて、子どもたちに市内企業を知り、興味を持ってもらう働きかけを進めること。
- ・少数の市民のデータではあるが、定量的評価における市民の満足度等が低下していることから、今後の市民の意向等を注視していくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

| |
|--|
| |
|--|

9 3次評価の改善意見等への対応

| |
|--|
| |
|--|

1 基本情報

| | | | | | | | | | |
|-----|------------------------|---------|------|-------|-----|-------------|--|--|--|
| 施策名 | 2 - 2 みどりが価値を生み出すまちづくり | | | | 戦略名 | みどり活用プロジェクト | | | |
| 担当 | 主担当部 | 市民環境経済部 | 主担当課 | 環境課 | | | | | |
| | 部長名 | 湯浅 章吾 | 関係課 | 教育支援課 | | | | | |

2 取組目標 (Plan)

| | |
|------|--|
| 取組目標 | ●豊かなみどりが生み出すきれいな空気や静けさといった白井市の良質な環境を、市民とともに守り、育むことで、愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。 |
|------|--|

3 平成29年度取組状況 (Do①)

| 取組1 地域での環境保全や創出の取組みとしてのグラウンドワーク(※)の推進 | | | | | | |
|---------------------------------------|---|----------------|--------|------|-----|----|
| 取組方針 | みどりの地域資源を守り、育む活動など、地域や市民団体等が連携した取組みを進めます。 ※市民、市民団体、事業者及び市が連携して地域の環境保全の取組みを行う活動で、生活の現場（グラウンド）に関する創造活動（ワーク）のこと。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の森の保全、市民とともにみどりの資源を育む活動を促進するため、市民と触れ合う機会の少ない神々廻市民の森において、市民団体と協働で入口付近の花壇づくりを継続して行った。また、神々廻市民の森の看板等の改修を白井高校美術部生徒の協力を得て実施することとした。（平成30年度に継続して実施） 千葉大学と協力し、大学院の授業の一環で、神々廻市民の森を舞台として、小学生を対象としたイベントを企画、実施した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 30 | 森のグラウンドワーク推進事業 | 改善して継続 | | | |

| 取組2 白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進 | | | | | | |
|--------------------------------|--|----------|--------|------|-----|----|
| 取組方針 | 学校や市民団体等と連携し、みどりが形成されてきた歴史やその貴重さなどに関する学習機会を充実します。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> 市民に環境との関わり合いについて関心を持ってもらい、環境保全活動の契機としてもらうため、市民団体等と協働で環境フォーラムを開催した。（体験活動とパネル展示） 市民団体と共催で夏休み子ども環境学習を実施した。（筑波宇宙センター、筑波実験植物園） 市民活動団体と協働で谷田・武西の原っぱでの生き物観察会等の環境学習（全11回）と、神崎川上流での生き物観察会等の環境学習（全3回）を実施した。 市内のイベントにおいて市内の水生生物を展示した。市内に生息するホタルの調査、生息場所再生の資料とするためホタルの試験飼育を行った。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 31 | 環境学習推進事業 | 改善して実施 | | | |

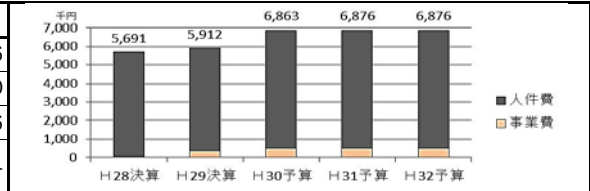
4 施策展開の状況 (Do②)

| | |
|-------------|--|
| 改善した取組 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、従前から行っている夏休み子ども環境学習に加え、新たに市民活動団体2団体と共催で環境学習を企画した。 ふるさと祭り、ホワイトフェスティバル等のイベントに出展し、サワガニ等の水生生物を展示し、市内に貴重な自然が残されていることをPRした。 |
| 他分野・他施策との連携 | 各小中学校の教育計画に基づいて、学習や体験等を取り入れた授業の実施について、小学校2校と実施に向け協議した。 |

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

| | H28決算 | H29決算 | H30予算 | H31予算 | H32予算 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事業費 | 14 | 347 | 503 | 516 | 516 |
| 人件費 | 5,677 | 5,565 | 6,360 | 6,360 | 6,360 |
| 合計 | 5,691 | 5,912 | 6,863 | 6,876 | 6,876 |
| プロジェクト内割合 | 31.5 | 26.8 | 22.6 | 9.8 | 8.4 |



6 1次評価(Check①&Action①)

| 定量的評価 | 施策指標名 | 単位 | 基準値/基準年度 | | 目標値 | 実績値 | | | | | |
|---------------|--|----|----------|---|--|-------|---|-------|-------|-------|--|
| | | | | | H32年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 | |
| | 白井のみどりの環境を自慢に思う市民の割合 | % | - | - | 72.1 | 72.1 | 77.8 | | | | |
| | 地域の環境保全活動に参加している市民の割合 | % | - | - | 44.0 | 33.8 | 24.1 | | | | |
| 定性的評価 | 市の良質な環境を市民と守り育てることで、愛着と誇りの持てるまちづくりを進めるため、H29年度は、身近な自然環境への興味、関心を高められるよう、市民団体2団体と共催で環境学習講座を年間計14回実施するとともに、大学との連携により神々廻市民の森でイベント実施するなど、より多くの市民に、市内の自然環境への興味、関心を高めるきっかけづくりができた。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている | | | | |
| 課題 | 喫緊の課題 | | | | 中長期的な課題 | | | | | | |
| | 自然環境の良さ、自然環境の保全について市民の満足度は高いが、市民が白井市内の身近な自然環境について、もっと知り、興味・関心が持てるよう、さらに認知度を高める必要がある。 | | | | 市民が市内の自然環境を理解し、市民と市が協働で自然環境を守り、育てていく必要がある。 | | | | | | |
| 施策の方向性(改善策) | 短期的な方向性 | | | | 中長期的な方向性 | | | | | | |
| | 市内の豊富な自然を有する森に対する市民の認知度を高めるため、神々廻市民の森で市民団体等とグラウンドワーク活動を実施する。 市民が市内の身近な自然環境に興味・関心を持てるよう、みどりが形成されてきた歴史や貴重さなどに関する学習機会を充実するとともに、市民団体が実施する環境学習を支援し、共催で実施する。 第一段階として、小中学校の授業の一環で環境学習を実施することを検討していく。 | | | | 市民が市内の自然環境をより理解できるよう、神々廻市民の森でのグラウンドワーク活動を他にも広げていく。 環境学習を通じて、市民が自然環境への興味・関心を高め、市民と行政が協働で自然環境を守り、育てていく。 | | | | | | |
| 施策を取り巻く環境の変化 | 市街化調整区域の開発について、平成26年度から規制することとなったが、太陽光発電施設の設置に伴う林地開発などにより森林面積が減少している中、市民の自然環境への興味・関心を高め、みどりの地域資源を守り、育てる活動を地域や市民団体等と行政との協働で取り組むことが求められている。 | | | | | | | | | | |
| 市民と行政の役割分担・協働 | <input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 森のグラウンドワークについては市民と行政との協働で進めている。環境学習についても、既に市民団体が行っている環境学習への支援や市との共催での実施など、今後さらに連携して協働で進めていく。 | | | | | | | | | | |

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・土地所有者を含めた市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、引き続き啓発等に努めること。
- ・平成30年5月に開所した「しろいまちづくりサポートセンター」に登録する市民活動団体等と連携して、環境保全活動を実践する市民・市民団体の裾野を広げていくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

9 3次評価の改善意見等への対応

1 基本情報

| | | | | | | | | | |
|-----|---------------------|---------|------|-------|-----|-------------|--|--|--|
| 施策名 | 2 - 3 みどりがつながるまちづくり | | | | 戦略名 | みどり活用プロジェクト | | | |
| 担当 | 主担当部 | 市民環境経済部 | 主担当課 | 環境課 | | | | | |
| | 部長名 | 湯浅 章吾 | 関係課 | 都市計画課 | | | | | |

2 取組目標 (Plan)

| | |
|------|---|
| 取組目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●白井市の豊かな暮らしを支える重要な要素である水とみどりの環境の大切さを市民一人一人が認識し、その保全と継承に向けた取り組みを展開します。 ●森や河川、田園など市街地の外側に広がるみどりと市街地内の緑地や樹木などのみどりがチェーンのようにつながり、みどりが持つ暮らしを豊かにする多様な可能性を活かします。 |
|------|---|

3 平成29年度取組状況 (Do①)

取組1 自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用

| | | | | | | |
|------|--|-------------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 市民や市民団体等と協働し、(仮称)谷田・清戸市民の森など、里山を積極的に保全・活用します。 | | | | | |
| 取組内容 | (仮称)谷田・清戸市民の森の整備に向けて、土地所有者アンケートや地区の代表者会議の意見を基に整備区域素案を作成し、代表者会議で協議した結果、土地所有者との個別交渉に入ることに付いて了承が得られた。 ※代表者会議に提示した整備区域素案は、各土地所有者と協議を行うための区域であるが、交渉の過程において協力いただけない又は隣地の協力の申出がある場合は、整備区域の変更もある。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 32 | (仮称)谷田・清戸市民の森整備事業 | 現状のまま継続 | | | |

取組2 市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援

| | | | | | | |
|------|--|------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 市民や市民団体等が自ら、道路沿いなどの身近なみどりを育て、みどりのネットワークをつくる活動を進めます。 | | | | | |
| 取組内容 | ・沿道のみどりを増やし、みどりのネットワークをつくるため、植栽活動を行う団体が草花等の購入に要した経費の一部を補助した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 33 | 沿道みどりの推進事業 | 現状のまま継続 | | | |

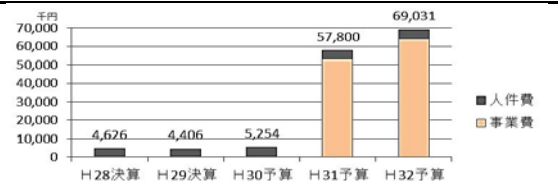
4 施策展開の状況 (Do②)

| | |
|-------------|---|
| 改善した取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区の代表者会議で、里山の保全の必要性について共通理解を得られるよう協議した。 ・公民センターが中心となって、カンナ街道を点ではなく線として再生するため、平塚地区懇談会で再生に向けた協議を行い、平成30年度から取り組むこととした。 |
| 他分野・他施策との連携 | |

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

| | H28決算 | H29決算 | H30予算 | H31予算 | H32予算 |
|-----------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 事業費 | 571 | 431 | 484 | 53,030 | 64,261 |
| 人件費 | 4,055 | 3,975 | 4,770 | 4,770 | 4,770 |
| 合計 | 4,626 | 4,406 | 5,254 | 57,800 | 69,031 |
| プロジェクト内割合 | 25.6 | 19.9 | 17.3 | 82.0 | 84.5 |



6 1次評価(Check①&Action①)

| 定量的評価 | 施策指標名 | 単位 | 基準値/基準年度 | | 実績値 | | | | | |
|---------------|--|----|----------|---|---|-------|---|-------|-------|-------|
| | | | | | H32年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 |
| | 白井のみどりの環境を自慢に思う市民の割合 | % | - | - | 72.1 | 72.1 | 77.8 | | | |
| | 身近に自然を感じるお気に入りの場がある市民の割合 | % | - | - | 85.3 | 85.3 | 79.6 | | | |
| 定性的評価 | 沿道のみどりのネットワークづくりについては、市民団体による主体的な取組が進んでいる。(仮称)谷田・清戸市民の森の整備区域の決定に向け、代表者会議で意見交換を実施したほか、土地所有者にアンケート調査を実施し、土地所有者の意向を概ね把握したが、整備区域の決定には至らず、整備スケジュールは予定より遅れる見込みとなった。 | | | | | | 進捗状況 <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> おおむね順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている | | | |
| 課題 | 喫緊の課題 | | | | 中長期的な課題 | | | | | |
| | (仮称)谷田・清戸市民の森の整備区域について、土地所有者と協議し、合意形成を図りながら選定を進める必要がある。道路沿いなどの身近なみどりが増え、みどりのネットワークを形成できるよう、植栽活動を行う市民団体を増やす必要がある。 | | | | (仮称)谷田・清戸市民の森の整備、保全のあり方、維持管理方法等が決定していないため、整備区域決定後に地元、市民活動団体等と協働で検討を行う必要がある。 | | | | | |
| 施策の方向性(改善策) | 短期的な方向性 | | | | 中長期的な方向性 | | | | | |
| | (仮称)谷田・清戸市民の森の整備区域について、土地所有者と協議しながら、その意向を踏まえ、整備区域の選定を進める。啓発活動などを通じ植栽活動を行う市民団体を増やし、連携を進める。 | | | | (仮称)谷田・清戸市民の森の整備方法、保全のあり方、維持管理方法などについて地元、市民活動団体等と協働で検討を進める。 | | | | | |
| 施策を取り巻く環境の変化 | ニュータウン開発等急激な都市化が進行した中で、ニュータウン区域から除外された谷田・清戸地区の県有地が貴重な里山として保全され、千葉県との協力により緑地の保全を目的に市に譲渡された。平成27年度まで、ごみのポイ捨て防止、きれいなまちづくりと潤いのある快適な生活環境の実現を目的に年2回植栽活動を行う団体に花苗等の配付による「花いっぱい運動」を継続してきたが、時期が限定されるなど課題があり見直しが求められた。自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全や活用、みどりによる癒しの空間を広げ、ウォーキングや散策等の活用が求められている。 | | | | | | | | | |
| 市民と行政の役割分担・協働 | <input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 (仮称)谷田・清戸市民の森の管理・運営等については、自らの地域への愛着や地域活力の向上を図るため、地元市民や市民活動団体と協働で取り組む。 沿道のみどりのネットワークづくり、市民が主体となって植栽と管理に取り組み、行政はそれを支援する。 | | | | | | | | | |

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・土地所有者を含めた市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、引き続き啓発等に努めること。
- ・平成30年5月に開所した「しろいまちづくりサポートセンター」に登録する市民活動団体等と連携して、環境保全活動を実践する市民・市民団体の裾野を広げていくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

9 3次評価の改善意見等への対応

1 基本情報

| | | | | | | | | | |
|-----|---------------------|-------|------|---------|-------|------------|--|--|--|
| 施策名 | 3 - 1 都市拠点にぎわうまちづくり | | | | 戦略名 | 拠点創造プロジェクト | | | |
| 担当 | 主担当部 | 都市建設部 | 主担当課 | 都市計画課 | | | | | |
| | 部長名 | 小林 茂輝 | 関係課 | 市民活動支援課 | 産業振興課 | 道路課 | | | |

2 取組目標 (Plan)

| | |
|------|--|
| 取組目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●市民生活の拠点である駅周辺など、それぞれの特性に合わせた整備を進め、まちのにぎわいをつくります。 ●産業の拠点としての工業団地の機能を充実させ、産業のにぎわいをつくります。 |
|------|--|

3 平成29年度取組状況 (Do①)

| 取組1 市役所・白井駅周辺や西白井駅周辺などでの地域特性に合わせたにぎわいづくり | | | | | | |
|--|---|--------------------|---------|------|-------------|--------|
| 取組方針 | 市役所・白井駅周辺、西白井駅周辺で、商業施設などの進出を誘導するとともに、各事業者が連携してマルシェなどのイベントを開催するなど、にぎわいづくりを進めます。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に策定した「市街化調整区域における地区計画の運用基準」により、市街化調整区域において、にぎわいづくりを実現するため・市街化調整区域において、商業施設、保育・子育て施設の誘導を図る地区計画（根公益的施設誘導地区地区計画）の策定手続きを行っている。（平成30年度継続） ・平成28年度に策定した「用途地域の指定方針及び指定基準」に基づき、市役所・白井駅周辺及び西白井駅周辺について、用途地域の変更及び地区計画の策定に向けた調査・研究を行った。 ・市民の力を活かしたにぎわい・交流づくりを進めるため、市民パートナー等が中心となって開催する「ときめきマルシェ」に対し、総合相談や物品の貸し出し、開催の周知など、必要な支援を行った。 ・ふるさとまつりについて駅前での開催を検討したが、駐車場などの問題で難しいことが判明し、総合公園での開催を検討していくこととした。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 34 | 中心都市拠点・生活拠点づくり事業 | 現状のまま継続 | 36 | フェスティバル開催事業 | 改善して継続 |
| | 35 | マルシェにぎわいづくり支援・協働事業 | 現状のまま継続 | | | |

| 取組2 工業団地への産業機能の集積に向けた環境整備 | | | | | | |
|---------------------------|--|----------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 工業団地へのアクセス道路の整備を進めます。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地及びその周辺から一般国道16号へのアクセス道路を整備するため、用地取得に取り組んだ。（平成29年度取得面積6,910.5㎡、これまでの総取得面積7,752.56㎡で、取得率は約50%となった。） ・平成28年度に策定した「用途地域の指定方針及び指定基準」により、白井工業団地内の河原子街道沿道において、用途地域の変更及び地区計画の策定に向けた調査・研究を行った。 ・地域住民や開発事業者等が地域の状況に応じた良質な住環境を保全・開発する計画の提案がしやすいようまちづくり条例を改正し、その改正内容を工業団地協議会（地区まちづくり協議会）に説明して、工業団地協議会による地区まちづくり計画の策定に向けた情報交換を行った。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 37 | 工業団地アクセス道路整備事業 | 改善して継続 | | | |
| | 38 | 工業専用地域振興事業 | 現状のまま継続 | | | |

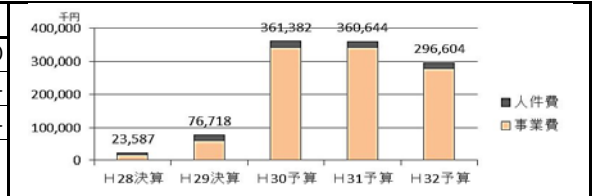
4 施策展開の状況 (Do②)

| | |
|-------------|--|
| 改善した取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地アクセス道路の整備は事業工程を見直し、供用開始予定を1年前倒しとした（平成33年度末⇒平成32年度末）。 ・企業進出を図るため、都市マスタープランの公益的施設誘導地区に進出する企業へのインセンティブ（関係機関等との協議の支援、企業の負担軽減策など）を検討した。 |
| 他分野・他施策との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスタープランの公益的施設誘導地区への企業進出を促進するため、進出企業に対するインセンティブ（関係機関等との協議の支援、企業の負担軽減策など）を都市建設部門と産業振興部門が連携して検討した。 ・市街化調整区域において、商業施設、保育・子育て施設の誘導を可能とする（根公益的施設誘導地区地区計画）の策定に向けて、都市建設部門と保育・子育て支援部門が連携して検討した。 |

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

| | H28決算 | H29決算 | H30予算 | H31予算 | H32予算 |
|-----------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 事業費 | 16,264 | 58,014 | 342,678 | 341,940 | 277,900 |
| 人件費 | 7,323 | 18,704 | 18,704 | 18,704 | 18,704 |
| 合計 | 23,587 | 76,718 | 361,382 | 360,644 | 296,604 |
| プロジェクト内割合 | 7.4 | 19.1 | 49.3 | 33.3 | 34.1 |



6 1次評価(Check①&Action①)

| 評価項目 | 施策指標名 | 単位 | 基準値/基準年度 | | 目標値 | 実績値 | | | | |
|---------------|---|----|----------|--|--------|---|--------|-------|-------|-------|
| | | | | | H32年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 |
| 定量的評価 | 駅周辺がにぎわっていると思う市民の割合 | % | - | - | 33.0 | 16.1 | 14.6 | | | |
| | 白井駅周辺の流動人口(月平均) | 人 | 44,666 | (H27) | 54,100 | 49,166 | 51,183 | | | |
| | 西白井駅周辺の流動人口(月平均) | 人 | 74,766 | (H27) | 84,600 | 76,900 | 92,166 | | | |
| | 工業団地立地事業者数(協議会加盟社) | 社 | 278 | (H27) | 278 | 278 | 271 | | | |
| 定性的評価 | 各拠点のにぎわいづくりには、商業施設等の進出誘導や道路整備などのハード面と、イベントの開催などのソフト面があり、ハード面では商業施設の進出誘導を実現するため市街化調整区域における地区計画の策定(平成30年度継続)を進め、ソフト面ではマルシェなどイベントの開催に当たって必要な支援を行い、にぎわいづくりを進めた。 | | | | | <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている | | | | |
| 課題 | 喫緊の課題 | | | 中長期的な課題 | | | | | | |
| | 工業団地アクセス道路の整備に必要な用地の確保及び整備費の確保が課題である。 | | | にぎわいをつくるためには、土地所有者をはじめ地域住民の理解と協力が必要である。また、イベントなどの開催に当たっては、市民団体や事業者が主体となり実施できるように支援していく必要がある。 | | | | | | |
| 施策の方向性(改善策) | 短期的な方向性 | | | 中長期的な方向性 | | | | | | |
| | 工業団地アクセス道路の整備に向け早期に用地を取得し、整備についても計画的に進める。 | | | 都市計画法及び都市計画関連法に基づき、各拠点において商業施設やにぎわい施設の整備・誘導を図るとともに、地区住民等に分かりやすく制度について説明し、各地区に応じた提案型の土地利用のルールづくりを促進していく。 また、駅周辺等でのイベントの実施に当たって、市民団体等の自立を促していく。 | | | | | | |
| 施策を取り巻く環境の変化 | 人口減少・高齢化社会を迎え、にぎわいの創出と魅力あるまちづくりを進めることで若い世代の移住・定住の促進と産業の活性化などによる持続可能なまちづくりが求められている。 | | | | | | | | | |
| 市民と行政の役割分担・協働 | <input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 | | | | | | | | | |
| | にぎわいを創出するイベントの開催や提案型の土地利用のルールづくりは、地域の特性に応じて、事業者や地域住民が主体となった取組が必要である。 | | | | | | | | | |

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・白井工業団地の活性化に向けて、工業団地アクセス道路の整備を財政状況を勘案しながら、スピード感をもって進めること。
- ・駅前等でのイベントの開催に当たっては、イベントの趣旨について市民等と共通認識を図り、市民等と行政の役割分担を明確にして取り組むこと。
- ・都市拠点における空き店舗の活用、商業施設等の誘致など、駅周辺の具体的な活性化策を検討すること。
- ・少数の市民のデータではあるが、定量的評価における市民の満足度等が低下していることから、今後の市民の意向等を注視していくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

9 3次評価の改善意見等への対応

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

1 基本情報

| | | | | | | | | | |
|-----|--------------------|-------|------|---------|-----|------------|--|--|--|
| 施策名 | 3 - 3 拠点がつながるまちづくり | | | | 戦略名 | 拠点創造プロジェクト | | | |
| 担当 | 主担当部 | 都市建設部 | 主担当課 | 都市計画課 | | | | | |
| | 部長名 | 小林 茂輝 | 関係課 | 市民活動支援課 | 道路課 | | | | |

2 取組目標 (Plan)

| | |
|------|--|
| 取組目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域の連携や交流を進め、地域づくりの相乗効果を目指します。 ●都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化し、まち全体の拠点間を移動しやすいまちづくりを進めます。 |
|------|--|

3 平成29年度取組状況 (Do①)

| 取組1 コーディネーターの発掘・育成 | | | | | | |
|--------------------|--|----------------|--------|------|-----|----|
| 取組方針 | 地域づくりを活性化するため、行政・地域住民・団体等をコーディネートする人材を発掘し、研修等の実施を通じた育成を進めます。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政・地域住民・団体等をコーディネートする能力を有する職員を育成するため、コーディネート型職員育成研修を開催した。 ・市民間・団体間の活動をコーディネートする市民を育成するため、地域づくりコーディネート入門講座を開催した。 ・しろい市民まちづくりサポートセンターのコーディネーターの発掘・育成を図るため、市民活動コーディネート講座を開催した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 50 | 市民参加・協働の人づくり事業 | 改善して継続 | | | |

| 取組2 都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークの整備 | | | | | | |
|----------------------------|---|---------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 各拠点へより便利に行くことができるよう、地域幹線道路の方向性を定めるとともに、生活道路の整備を進めます。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・構想道路「(仮)木十余一線」の計画の検討及び都市計画決定のための手続き等に向けた調査・研究を行った。 ・中長期的な地域幹線道路等の整備計画について、現行計画が平成4年に策定したものであるため、都市マスタープランとの整合性の確保、現状に即した道路整備の優先順位付けを図るため、現行計画の見直しを検討した。 ・市道新設改良事業として用地取得(336m)や道路工事(294m)を行った。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 51 | 道路ネットワークづくり事業 | 現状のまま継続 | | | |
| | 52 | 市道新設改良事業 | 改善して継続 | | | |

| 取組3 利便性の良い交通ネットワークの確保 | | | | | | |
|-----------------------|--|----------|--------|------|-----|----|
| 取組方針 | 拠点間を移動しやすいよう、北総線運賃対策をはじめ、循環バス・鉄道など交通ネットワークの利便性の向上を進めます。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道利用者の増加を図ることで、運賃の値下げを実現できるよう、北総線沿線地域活性化協議会(千葉県や沿線市など)に参加し、北総線や沿線地域の活性化に向けた提案を募集し、その取組の実施に向けた整理を行った。 ・市内に比較的大きな病院が開院したことなどを踏まえて、平成28年度に循環バスルートの見直しを検討しており、平成29年8月から見直し後のルートで運行を開始した。 ・また、将来に渡り持続可能な公共交通ネットワークを形成するとともに、地域公共交通の活性化を推進するためのマスタープランとなる「白井市地域公共交通網形成計画」を策定した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 53 | 鉄道交通推進事業 | 改善して継続 | | | |
| | 54 | バス交通推進事業 | 改善して継続 | | | |

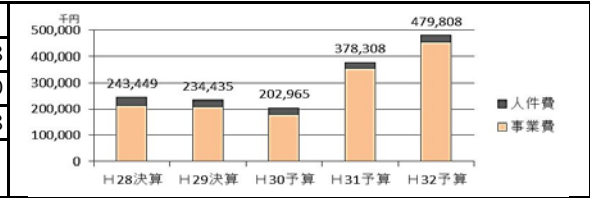
4 施策展開の状況 (Do②)

| | |
|-------------|---|
| 改善した取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・「白井市地域公共交通網形成計画」に、地域の実情に応じた公共交通ネットワークを構築し、移動の利便性を高めることや、公共交通の利用促進策などを盛り込んだ。 ・現状を踏まえた中長期的な地域幹線道路等の整備計画の見直しを検討した。 |
| 他分野・他施策との連携 | |

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

| | H28決算 | H29決算 | H30予算 | H31予算 | H32予算 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 事業費 | 213,036 | 208,601 | 179,515 | 354,858 | 456,358 |
| 人件費 | 30,413 | 25,834 | 23,450 | 23,450 | 23,450 |
| 合計 | 243,449 | 234,435 | 202,965 | 378,308 | 479,808 |
| プロジェクト内割合 | 76.4 | 58.4 | 27.7 | 35.0 | 55.2 |



6 1次評価(Check①&Action①)

| 定量的評価 | 施策指標名 | 単位 | 基準値/基準年度 | | 目標値 | 実績値 | | | | |
|---------------|--|----|----------|---|--|-------|-------|-------|-------|---|
| | | | | | H32年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 |
| | 市内を移動する際に不便を感じる市民の割合 | % | - | - | 62.0 | 74.2 | 75.0 | | | |
| | 地域活性化を実践するコーディネーター数 | 人 | - | - | 20 | 0 | 0 | | | |
| | 市内の道路網に対する満足度 | % | - | - | 58.0 | 48.4 | 44.6 | | | |
| | バス・鉄道などの公共交通機関に対する満足度 | % | - | - | 33.0 | 16.1 | 7.1 | | | |
| 定性的評価 | <p>拠点がつながるまちづくりとしては、大小さまざまな拠点間をソフト面・ハード面ともにつなげていくことが必要であり、ソフト面では、行政・地域住民・団体等をコーディネートする人材の発掘・育成に、ハード面では、拠点間を安全に移動しやすい環境整備に向けて、構想道路の路線ルートの検討や市道新設改良の計画的な取組、循環バスの運行ルートの変更など、拠点間のネットワーク化を推進した。</p> | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている |
| 課題 | 喫緊の課題 | | | | 中長期的な課題 | | | | | |
| | 拠点がつながるまちづくりの課題は、基本的に短期間で解決できる性質のものではなく、中長期的に取り組むものである。 | | | | 地域幹線道路(幹線市道等)の整備には多額の費用が必要である。 公共交通に関しては、交通弱者の増加に伴い公共交通へのニーズが高まる一方で、人口減少や自家用車の普及により公共交通の利用者の減少が見込まれており、各公共交通機関の役割に基づき、相互に補完しながら、時代に即した公共交通を維持していく必要がある。また、北総線の運賃に対する不満が多い。 | | | | | |
| 施策の方向性(改善策) | 短期的な方向性 | | | | 中長期的な方向性 | | | | | |
| | 公共交通については、「地域公共交通網形成計画」に基づき、交通事業者との協議や公共交通の利用啓発など、できるところから順次取り組んでいく。 また、安全で円滑な道路交通環境を確保するため、市道新設改良事業を継続して進める。 | | | | 構想道路や地域幹線道路の計画的な整備を進め、道路ネットワークの強化を図る。 また、公共交通については、「地域公共交通網形成計画」に基づき、持続可能な公共交通網を具体化するため、各交通事業者との協議を踏まえながら、取り組んでいく。 鉄道については、高運賃の是正に向け、沿線市や鉄道事業者と協力し、鉄道の利用を促進するための取組を検討し、実施していく。 | | | | | |
| 施策を取り巻く環境の変化 | 高齢化の進展などに伴い、高齢者や障害者等の交通弱者の増加が見込まれる。また、人口減少における地域の都市機能やコミュニティ機能の低下が危惧される。 | | | | | | | | | |
| 市民と行政の役割分担・協働 | <input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 ・地域づくりを活性化するためには、地域の連携や交流を市民が主体的に進めていくことが必要である。 ・公共交通については、路線バス・鉄道・タクシーなど民間事業者が自ら取り組む部分が多い。 | | | | | | | | | |

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・地域公共交通網形成計画に基づき、地域の実情に応じた公共交通ネットワークを構築し、移動の利便性を高めること。
- ・地域公共交通網形成計画に基づき、市民、事業者等の協力のもと、公共交通の利用促進策を推進すること。
- ・平成30年5月に開所した「しろいまちづくりサポートセンター」を拠点に、市民活動団体のコーディネートを推進すること。
- ・少数の市民のデータではあるが、定量的評価における市民の満足度等が低下していることから、今後の市民の意向等を注視していくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

| |
|--|
| |
|--|

9 3次評価の改善意見等への対応

| |
|--|
| |
|--|